

対話型鑑賞から読み解く「ホガース版画」

特別展「近代ロンドンの繁栄と混沌^{カオス}：東京大学経済学図書館蔵ウィリアム・ホガース版画（大河内コレクション）のすべて」より

概要

東京大学経済学図書館・経済学部資料室では2017年6月に、同年3月に亡くなられた大河内暁男名誉教授のご遺志により、ご遺族からウィリアム・ホガース（William Hogarth, 1697–1764）の版画71点の寄贈を受けた。当該コレクションは本学元総長の大河内一男先生が収集され、18世紀のイギリス社会の実像を描いた作品として研究や教育の資料として活用されていたものを、ご子息の暁男先生が引き継がれたものである。資料室ではこの版画資料について保存に適するよう全点の額装を新調した上で、本学駒場博物館の協力を得て、「近代ロンドンの繁栄と混沌^{カオス}：東京大学経済学図書館蔵ウィリアム・ホガース版画（大河内コレクション）のすべて」と題した特別展を開催して全点を一般に公開した。限られた期間（2023年5月13日（土）～6月25日（日））ではあったものの、多数の観覧者を得て特別展は盛況のうちに幕を閉じた。

この展覧会では、本学大学院総合文化研究科の大石和欣教授に監修をお願いし、駒場博物館長（当時）の三浦篤教授、同博物館の折茂克哉助教にも展示構成や様々な点でお力添えいただき、大石教授と三浦教授には開催記念講演会（2023年6月17日（土））の講師も務めていただいた。その際の講演内容は前号（『東京大学経済学部資料室年報』14）に特集記事として掲載している。本号では、前号に引き続くホガース特集の第2弾として、『ホガースの銅版画：英国の世相と諷刺』（岩崎美術社、1987年）の著者として知られる美術史家の森洋子先生（明治大学名誉教授）、服飾美学・西洋服飾史がご専門でホガース版画も題材の一つとして広くご研究されている山崎稔恵先生（関東学院大学名誉教授）にお願いし、ホガース作品やホガースの生きた時代の社会についてそれぞれのご専門の立場から寄稿いただいた。

森先生、山崎先生は特別展にも何度も足を運ばれ、講演会でも貴重なご意見を賜った。特別展では、観覧者が付箋に意見や質問を書いて展示作品の周囲に貼り、またそれへの回答も自由に付箋で貼れるという参加型・対話型の展示会を目指した。森先生や山崎先生も付箋でのやりとりに参加され、数多くのご意見や回答をいただくことができた。本特集はこういった両先生と資料室との関係から生まれたものであり、ここに経緯を記してお二人への感謝の意としたい。

